

LGPKI 技術仕様書

第 2.3 版

令和 7 年 4 月 17 日

地方公共団体情報システム機構

1	はじめに	1
1.1.	概要	1
1.2.	各章の位置付け	1
1.3.	前提	2
1.4.	見直し	3
2	LGPKI コンポーネント仕様	4
2.1.	概要	4
2.2.	LGPKI 組織 CA	5
2.3.	LGPKI 組織 CA R2	5
2.4.	LGPKI アプリケーション CA R2、アプリケーション CA R3 (LGWAN 内部環境用)	7
2.5.	リポジトリ等	8
2.5.1.	LGPKI 公開リポジトリ	8
2.5.2.	LGPKI 統合リポジトリ	8
2.6.	LGPKI 証明書検証サーバ	9
2.7.	Security Communication RootCA2	9
2.8.	SECOM Document Signing RSA Root CA 2023	10
2.9.	セコムパスポート for Web SR3.0 CA	10
2.10.	セコムパスポート for PublicID CA	11

2.1 1.	セコム公開リポジトリ	11
2.1 2.	セコム OCSP レスポンダ	12
2.1 3.	エンドエンティティ	12
2.1 4.	LGPKI における認証情報	14
2.1 4.1.	認証情報の公開	14
2.1 4.2.	相互認証証明書の格納・削除	17
2.1 4.3.	自己署名証明書及びリンク証明書の格納・削除	19
2.1 4.4.	失効情報の格納と更新	20
3	アプリケーション仕様	22
3.1.	概要	22
3.2.	証明書と失効情報（CRL/ARL）のプロファイル	23
3.3.	証明書と失効情報（CRL/ARL）の公開方法	26
3.4.	推奨署名アルゴリズム	27
3.4.1.	アルゴリズム	27
3.4.2.	鍵長	28
3.4.3.	認証パスの構築・検証方法	28
3.5.	LGPKI における名前と DIT の規定	28
3.5.1.	識別名、相対識別名	28
3.5.2.	エンコードタイプ	29
3.5.3.	issuerAltName 及び subjectAltName	29

4	証明書検証サーバの利用	30
4.1.	概要	30
4.2.	証明書検証サーバ用証明書（VA 証明書）	30
4.3.	クライアント要件	30
4.3.1.	クライアント側の前準備	30
4.4.	証明書検証サーバ通信プロトコル	31
4.5.	証明書検証サーバのアクセス制御	31
5	OCSP レスポンダの利用	32
6	ディレクトリプロファイル	33
6.1.	LGPKI における DIT 構造	33
6.2.	DIT の名前形式	34
6.3.	リポジトリ等に格納される情報	34
6.3.1.	LGPKI コンテナ	34
6.3.2.	CA エントリ	38
6.4.	リポジトリ等のインタフェース仕様	48
6.5.	リポジトリ等のアクセス制御	50
6.5.1.	認証ポリシー	50
6.5.2.	アクセス制御ポリシー	50

1 はじめに

本仕様書は、LGPKI を構成する各 CA 及び LGPKI を利用するアプリケーションに関する技術仕様を定めるものである。本書の対象は、次の技術要件とする。

- LGPKI を構成する各コンポーネントが満たすべき技術要件
- LGPKI を利用するアプリケーションが満たすべき技術要件

1.1. 概要

LGPKI は、LGPKI 組織 CA 及び LGPKI 組織 CA R2（以下「組織 CA 等」という。）を中心とした認証基盤である。

本仕様書では、LGPKI を利用するために必要となる機能と仕様を定める。ただし、外部サービスを利用する機能については、外部サービスの規程を参照するものとする。

1.2. 各章の位置付け

（2章）LGPKI コンポーネント仕様

2章では、LGPKI を構成する PKI コンポーネントの概要と基本的な仕様について記述する。対象とするコンポーネントの種類は以下のとおりとする。

- LGPKI 組織 CA
- LGPKI 組織 CA R2
- LGPKI アプリケーション CA R2
- LGPKI アプリケーション CA R3
- LGPKI 公開リポジトリ
- LGPKI 統合リポジトリ

- LGPKI 証明書検証サーバ
- Security Communication RootCA2（外部サービス）
- SECOM Document Signing RSA Root CA 2023（外部サービス）
- セコムパスポート for Web SR3.0 CA（外部サービス）
- セコムパスポート for PublicID CA（外部サービス）
- セコム公開リポジトリ（外部サービス）
- セコム OCSP レスポンダ（外部サービス）
- エンドエンティティ

（3章）アプリケーション仕様

3章では、LGPKI を利用するアプリケーションが満たすべき機能を記述する。

また、この仕様書で記述するアプリケーションは、LGPKI を利用しデータに署名するソフトウェア（署名者）と署名されたデータを検証するソフトウェア（署名検証者）に位置付ける。

（4章）証明書検証サーバの利用

4章では、LGPKI の提供する証明書検証サーバを利用する際に満たすべき仕様について定める。

（6章）ディレクトリプロファイル

6章では、リポジトリ等のプロファイルについて定める。

1.3. 前提

政府認証基盤相互運用性仕様書

（<http://www.gpki.go.jp/session/>）及び以下の標準等を考慮し、技術仕様を規定する。

- IETF : Internet X.509 Public Key Certificate Infrastructure and CRL Profile
- ITU-T : ITU-T RECOMMENDATION X.509 | ISO/IEC 9594-8

1.4. 見直し

本仕様書は情報通信技術の動向等を踏まえ必要に応じて見直すものとする。

2 LGPKI コンポーネント仕様

2.1. 概要

本章では、LGPKI を構成する各 PKI コンポーネントの概要と基本的な仕様について記述する。

なお、LGPKI を構成する PKI コンポーネントの概念図を以下に示す。

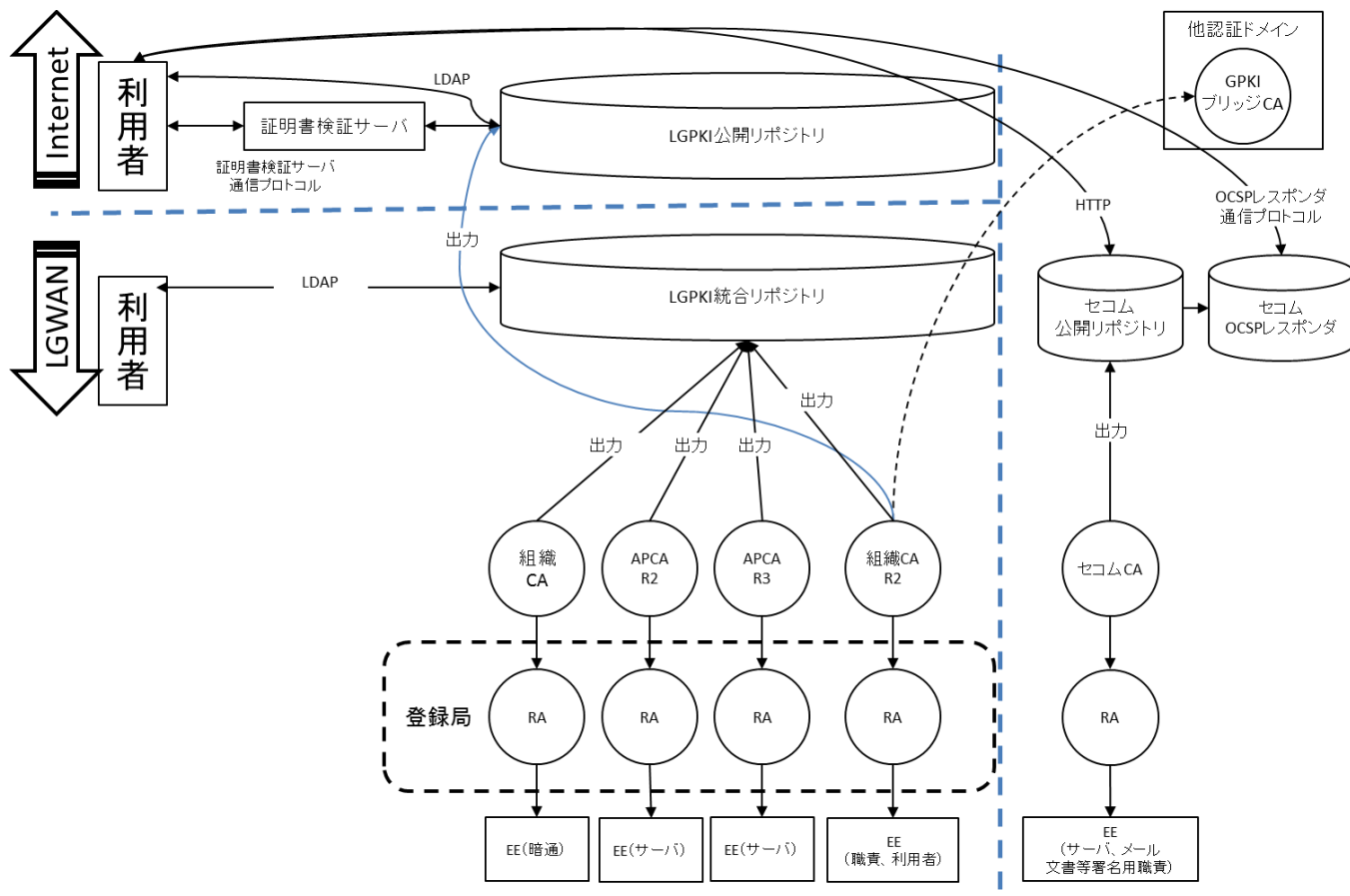


図 2-1 LGPKI 概念図

LGPKI は、組織 CA 等（組織 CA 等発行局及び登録局（以下「RA」という。）、LGPKI アプリケーション CAR2、アプリケーション CAR3、LGPKI 公開リポジトリ及び LGPKI 統合リポジトリ（以下、総称して「リポジトリ等」という。）、LGPKI 証明書検証サーバ、セコムトラストシステムズ株式会社の運用する認証サービス、セコム公開リポジトリ、セコ

ム OCSP レスポンダから構成される。

2.2. LGPKI 組織 CA

LGPKI 組織 CA は証明書の発行、失効、更新を行う。また各種証明書と失効情報（CRL/ARL）をリポジトリ等に格納する。

LGPKI 組織 CA には RA が存在する。RA は証明書所有者の身元を保証し、証明書に含まれる公開鍵と一致する秘密鍵を確実に証明書所有者が持っていることを保証する。

LGPKI 組織 CA は以下の機能を備える。

- 自己署名証明書の発行及び LGPKI 統合リポジトリへの格納
- 証明書の発行、更新
- エンドエンティティ（コンピュータシステムを含む）からの証明書発行要求の受け付け、証明書の発行、失効、更新
- 自 CA が発行した証明書に関する失効要求の受け付け、失効情報の発行とリポジトリ等への格納
- 自 CA の各操作員の明確な権限分離が可能な証明書の発行・更新・失効
- 自 CA の鍵更新

2.3. LGPKI 組織 CA R2

LGPKI 組織 CAR2 は他認証ドメインに属する CA（以下「他 CA」という。）の公開鍵を含

む相互認証証明書の発行、失効、更新を行う。

LGPKI 組織 CAR2 は LGPKI 組織 CAR2 が発行した相互認証証明書を含む相互認証証明書ペアと、失効情報をリポジトリ等の LGPKI 組織 CAR2 エントリに格納する。

LGPKI 組織 CAR2 は証明書の発行、失効、更新を行う。また各種証明書と失効情報（CRL/ARL）をリポジトリ等に格納する。

LGPKI 組織 CAR2 には RA が存在する。RA は証明書所有者の身元を保証し、証明書に含まれる公開鍵と一致する秘密鍵を確実に証明書所有者が持っていることを保証する。また、相互認証証明書に含まれる公開鍵が確実にその CA の公開鍵であり、CA がこの公開鍵に一致する秘密鍵を持っていることを保証する。

LGPKI 組織 CAR2 は以下の機能を備える。

- 自己署名証明書の発行とリポジトリ等への格納
- 証明書の発行、更新
- 他 CA からの相互認証証明書発行要求の受け付けと検証、証明書の発行、更新
- 他 CA への相互認証証明書発行要求の作成、発行・更新された証明書の受け入れ
- 相互認証証明書ペアのリポジトリ等への格納
- 他 CA への相互認証証明書失効要求の作成
- エンドエンティティ（コンピュータシステムを含む）からの証明書発行要求の受け付け、証明書の発行、失効、更新
- 自 CA が発行した証明書に関する失効要求の受け付け、失効情報の発行とリポジトリ等への格納
- 自 CA の各操作員の明確な権限分離が可能な証明書の発行・更新・失効
- 自 CA の鍵更新

なお、鍵更新、リンク証明書の仕様については、政府認証基盤相互運用性仕様書に定め

られた仕様に準拠するものとする。

2.4. LGPKI アプリケーション CA R2、アプリケーション CA R3 (LGWAN 内部環境用)

LGPKI アプリケーション CA R2、LGPKI アプリケーション CA R3 は証明書の発行、失効、更新を行う。また各種証明書と失効情報（CRL）を LGPKI 統合リポジトリに格納する。

LGPKI アプリケーション CA R2、LGPKI アプリケーション CA R3 には RA が存在する。RA は証明書所有者の身元を保証し、証明書に含まれる公開鍵と一致する秘密鍵を確実に証明書所有者が持っていることを保証する。

LGPKI アプリケーション CA R2、LGPKI アプリケーション CA R3 は以下の機能を備える。

- 自己署名証明書の発行と LGPKI 統合リポジトリへの格納
- 証明書の発行、更新
- エンドエンティティ（コンピュータシステムを含む）からの証明書発行要求の受け付け、証明書の発行、失効、更新
- 自 CA が発行した証明書に関する失効要求の受け付け、失効情報の発行と LGPKI 統合リポジトリへの格納
- 自 CA の各操作員の明確な権限分離が可能な証明書の発行・更新・失効
- 自 CA の鍵更新

2.5. リポジトリ等

2.5.1. LGPKI 公開リポジトリ

LGPKI 公開リポジトリは、証明書の有効性検証に必要な各種証明書、CRL/ARL を格納する。また、LDAPv3(389/tcp)を備えており、各 PKI コンポーネントからの証明書、CRL/ARL の検索、取り出し、格納が行える。

LGPKI 公開リポジトリは以下の機能を備える。

- LGPKI 組織 CA R2 の自己署名証明書の格納
- 相互認証証明書及び相互認証証明書ペアの格納
- CRL/ARL の格納
- 証明書、CRL/ARL の検索
- 他リポジトリとの連携（リフェラル）

他のリポジトリとの連携に関しては、LDAPv3 リフェラルを使うことを前提とする。

2.5.2. LGPKI 統合リポジトリ

LGPKI 統合リポジトリは、証明書の有効性検証に必要な各種証明書、CRL/ARL を格納する。また、LDAPv3(389/tcp)を備えており、各 PKI コンポーネントからの証明書、CRL/ARL の検索、取り出し、格納が行える。

LGPKI 統合リポジトリは以下の機能を備える。

- LGPKI 組織 CA の自己署名証明書の格納
- LGPKI 組織 CA R2 の自己署名証明書の格納

- LGPKI アプリケーション CA R2 の自己署名証明書の格納
- LGPKI アプリケーション CA R3 の自己署名証明書の格納
- CRL/ARL の格納
- 証明書、CRL/ARL の検索

2.6. LGPKI 証明書検証サーバ

LGPKI 証明書検証サーバは、検証要求者が指定した証明書の妥当性を検証し、その検証要求者に証明書の検証結果を返すサーバである。証明書認証パス構築と各証明書の有効性に関する検証も可能なプロトコルを使用する。

LGPKI 証明書検証サーバは相互運用に関する機能として以下を備える。

- LGPKI 証明書検証サーバ自身の証明書の発行要求、発行された証明書の受け入れ
- 検証要求者からの証明書検証要求受け付け
- 認証パス構築
- 認証パス検証（指定されたポリシーによるチェック等）
- 検証要求者への証明書検証結果の送信

2.7. Security Communication RootCA2

Security Communication RootCA2 はセコムトラストシステム株式会社が運用するパブリックな Root 認証局である。Security Communication RootCA2 は証明書の発行、失効、更新を行う。また各種証明書と失効情報（CRL）をセコム公開リポジトリに格納する。Security Communication RootCA2 には RA が存在する。RA は証明書所有者の身元を保証し、証明書に含まれる公開鍵と一致する秘密鍵を確実に証明書所有者が持っていることを保証する。

Security Communication RootCA2 の備える機能については、「Security Communication RootCA 認証運用規定」及び「Security Communication RootCA 下位 CA 証明書ポリシー」を参照のこと。[\(https://repository.secomtrust.net/SC-Root2/\)](https://repository.secomtrust.net/SC-Root2/)

2.8. SECOM Document Signing RSA Root CA 2023

SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 はセコムトラストシステム株式会社が運用するパブリックな Root 認証局である。SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 は証明書の発行、失効、更新を行う。また各種証明書と失効情報（CRL）をセコム公開リポジトリに格納する。SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 には RA が存在する。RA は証明書所有者の身元を保証し、証明書に含まれる公開鍵と一致する秘密鍵を確実に証明書所有者が持っていることを保証する。

SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 の備える機能については、「Security Communication RootCA 認証運用規定」及び「Security Communication RootCA 下位 CA 証明書ポリシー」を参照のこと。[\(https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/\)](https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/)

2.9. セコムパスポート for Web SR3.0 CA

セコムパスポート for Web SR3.0 CA は Security Communication RootCA2 からサイニングを受けたセコムトラストシステム株式会社が運用するパブリックな Web サーバ証明書（OV 証明書）を発行する CA である。セコムパスポート for Web SR3.0 CA は証明書の発行、失効、更新を行う。また各種証明書と失効情報（CRL）をセコム公開リポジトリに格納する。

セコムパスポート for Web SR3.0 CA には RA が存在する。RA は証明書所有者の身元を保証し、証明書に含まれる公開鍵と一致する秘密鍵を確実に証明書所有者が持っていることを保証する。

セコムパスポート for Web SR3.0 CA の備える機能については、「セコム電子認証基盤認

証運用規程」及び「セコムパスポート for Web SR 認証局 証明書ポリシー」を参照のこと。
(<https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfw/pfwsr3ca/>)

2.10. セコムパスポート for PublicID CA

セコムパスポート for PublicID CA は Security Communication RootCA2 または SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 からサイニングを受けたセコムトラストシステムズ株式会社が運用するパブリックなメール用証明書、文書等署名用職責証明書を発行するサービスである、セコムパスポート for PublicID CA は証明書の発行、失効、更新を行う。また各種証明書と失効情報（CRL）をセコム公開リポジトリに格納する。

セコムパスポート for PublicID CA には RA が存在する。RA は証明書所有者の身元を保証し、証明書に含まれる公開鍵と一致する秘密鍵を確実に証明書所有者が持っていることを保証する。

セコムパスポート for PublicID CA の備える機能については、「セコム電子認証基盤認証運用規程」及び「セコムパスポート for Member 2.0 PUB 証明書ポリシー」を参照のこと。

- ・ <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfm20pub/>
- ・ <https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

2.11. セコム公開リポジトリ

セコム公開リポジトリは、セコムトラストシステムズが運用するセコムの認証局が発行する証明書の有効性検証に必要な各種証明書、CRL/ARL を格納する。

セコム公開リポジトリが備える機能については、セコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスのリポジトリで公開する CP、CPS を参照のこと。

Security Communication RootCA2 : <https://repository.secomtrust.net/SC-Root2/>

SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 : <https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

セコムパスポート for Web SR3.0 CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfw/pfwsr3ca/>

セコムパスポート for PublicID CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfm20pub/>

<https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

2.12. セコム OCSP レスポンダ

セコム OCSP レスポンダは、検証要求者が指定した証明書の有効性を検証し、その検証要求者に証明書の有効性の検証結果を返すサーバである。OCSP レスポンダのプロトコルは RFC2560 及び RFC5019 で規定されている。

セコム OCSP レスポンダが備える機能については、セコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスのリポジトリで公開する CP、CPS を参照のこと。

Security Communication RootCA2 : <https://repository.secomtrust.net/SC-Root2/>

SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 : <https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

セコムパスポート for Web SR3.0 CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfw/pfwsr3ca/>

セコムパスポート for PublicID CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfm20pub/>

<https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

2.13. エンドエンティティ

エンドエンティティは、データに署名し送信する署名者と、認証パスを構築し署名を検証する署名検証者に大別できる。署名者は CA から証明書を発行され、その証明書に含む公開鍵と一致する秘密鍵でデータに署名することができる。

共通の機能として以下を備える。

- エンドエンティティ自身の証明書発行要求、発行された証明書の受け入れ
- エンドエンティティ自身の証明書の更新要求、発行された証明書の受け入れ

署名者のエンドエンティティは以下の機能を備えている。

- データに署名
- リポジトリ等及びセコム公開リポジトリから証明書の取得
- 認証パスの構築（オプション）

署名検証者のエンドエンティティは以下の機能を備えている。

- 署名の検証
- リポジトリ等及びセコム公開リポジトリから証明書、CRL/ARL の取得
- LDAPv3 リフェラルによる他のリポジトリへの連携
エンドエンティティは、LDAPv3 をサポートすること。
- OCSP レスポンダへの問い合わせ機能、LGPKI 証明書検証サーバへの問い合わせ機能、もしくは証明書検証サーバ等と同等の証明書検証機能

2.14. LGPKI における認証情報

LGPKI では、相互認証証明書や自己署名証明書及び失効情報を用いる。以降では、これら認証情報について記述する。

なお、セコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスの認証局についてはセコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスのリポジトリで公開する CP、CPS を参照のこと。

Security Communication RootCA2 : <https://repository.secomtrust.net/SC-Root2/>

SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 : <https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

セコムパスポート for Web SR3.0 CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfw/pfwsr3ca/>

セコムパスポート for PublicID CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfm20pub/>
<https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

2.14.1. 認証情報の公開

LGPKI の各 CA が発行する各種証明書と証明書の有効性を検証する情報である失効情報 (CRL/ ARL) の公開に関して記載する。ここでは、主に各種証明書と CRL/ ARL のリポジトリ等への格納・削除・更新について記述する。

証明書や CRL などの ASN.1 の構造をもつバイナリデータは、AttributeDescription での「Binary」オプションを指定し、バイナリ符号化して格納する。

表 2-1 に各認証情報と LGPKI 公開リポジトリへの格納・削除・更新の関係を示し、次節以降で格納形式等を記述する。

表 2-1 認証情報の LGPKI 公開リポジトリへの格納・削除・更新

		LGPKI 組織 CA の処理	LGPKI 組織 CA R2 の処理
相互認証証明書	格納	—	○
	削除	—	○
	更新	—	○
エンドエンティティ 用証明書	格納	—	—
	削除	—	—
	更新	—	—
自己署名証明書	格納	—	○
	削除	—	○
リンク証明書	格納	—	○
	削除	—	○
失効情報	格納	—	○
	削除	—	○
	更新	—	○

○：処理対象、—：処理対象外

- ・エンドエンティティ用証明書は、リポジトリ等への情報格納を行わない。

格納についての詳細な形式は RFC4523 の記述にしたがうものとする。

以下の証明書は、リポジトリ内の格納対象のエントリに複数格納される可能性がある。
このため削除や更新時には、対象となる証明書以外に影響を与えないようにしなければならない。

- 各 CA エントリの cACertificate 属性に格納される、自己署名証明書及びリンク証明書もしくは相互認証証明書

表 2－2 に各認証情報と LGPKI 統合リポジトリへの格納・削除・更新の関係を示し、次節以降で格納形式等を記述する。

表 2－2 認証情報の統合リポジトリ等への格納・削除・更新（○：処理対象、－：処理対象外）

		組織 CA の処理	組織 CAR2 の処理	アプリケーション CAR2 の処理	アプリケーション CA3 の処理
相互認証証明書	格納	－	－	－	－
	削除	－	－	－	－
	更新	－	－	－	－
エンドエンティティ用証明書	格納	－	－	－	－
	削除	－	－	－	－
	更新	－	－	－	－
自己署名証明書	格納	○	○	○	○
	削除	○	○	○	○
リンク証明書	格納	○	○	－	－
	削除	○	○	－	－
失効情報	格納	○	○	○	○

	削除	○	○	○	○
	更新	○	○	○	○

格納についての詳細な形式は RFC4523 の記述にしたがうものとする。

以下の証明書は、リポジトリ内の格納対象のエントリに複数格納される可能性がある。
このため削除や更新時には、対象となる証明書以外に影響を与えないようにしなければならない。

- 各 CA エントリの `cACertificate` 属性に格納される、自己署名証明書及びリンク証明書もしくは相互認証証明書

2.14.2. 相互認証証明書の格納・削除

(1) 相互認証証明書の格納

ア) LGPKI 組織 CAR2 の CA エントリへの格納

LGPKI 組織 CAR2 が他 CA へ発行した、あるいは他 CA から発行された相互認証証明書のリポジトリ等への格納は、次の形式で行う。

格納するエントリ	LGPKI 組織 CAR2 の CA のエントリ
格納するエントリが持たなければならないオブジェクトクラス	PkiCA (joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) pkiCA(22))
格納する属性名	crossCertificatePair 属性
属性値の型	CertificatePair

格納するフィールド ¹	Forward フィールド	他 CA が LGPKI 組織 CA の公開鍵に署名した相互認証証明書
	Reverse フィールド	LGPKI 組織 CA が他 CA の公開鍵に署名した相互認証証明書
複数 CA と相互認証した場合の属性値の扱い	相互認証した CA ごとに別の属性値として格納する	

相互認証証明書の格納は、相互認証証明書ペアを構成する 2 つの証明書が両方揃った時点で行っても、リポジトリ等へ格納できる状態になった方から随時格納してもよい。

(2)相互認証証明書の削除

相互認証証明書の削除は、次のような場合に実施する。

- 自 CA が発行した相互認証証明書を失効した場合
- 相互認証する相手の CA が自 CA に対して発行した相互認証証明書を失効したことが、発行した相手の CA から通知された場合
- リポジトリ等内に存在する相互認証証明書が失効、もしくは、停止されたことを知った場合

¹ International standard 9594-8 ITU-T RECOMMENDATION X.509 (03/2000)では、これまで forward / reverse と表記されていたフィールドを issuedToThisCA / issuedByThisCA と表記している。しかし、本書では政府認証基盤相互運用性仕様書との整合性を考慮し forward / reverse と表記する。

2.14.3. 自己署名証明書及びリンク証明書の格納・削除

組織 CA 等の自己署名証明書は 10 年間有効である。そのうち、前半の 5 年間のみ相互認証証明書の発行に使用する。

(1) 自己署名証明書、リンク証明書の格納

組織 CA 等、LGPKI アプリケーション CAR2、アプリケーション CAR3 が自らの公開鍵に自らの秘密鍵で署名して発行した自己署名証明書及びリンク証明書のリポジトリ等への格納は、次の形式で行うものとする。なお、LGPKI 組織 CA は、自己署名証明書及びリンク証明書の LGPKI 公開リポジトリへの格納は行わない。

格納するエントリ	CA のエントリ
格納するエントリが持たなければならないオブジェクトクラス	PkiCA (joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) pkiCA(22))
格納する属性	cACertificate 属性
属性値の型	Certificate
複数の自己署名証明書及びリンク証明書を持つ場合の属性値の扱い	発行された自己署名証明書及びリンク証明書ごとに別の属性値として格納する

(2) 自己署名証明書及びリンク証明書の削除

CA は、CA エントリ内の cACertificate 属性中の証明書の削除を、次のような場合に実施する。

- 証明書内容変更、鍵長変更等で証明書を失効した場合
- 証明書の有効期限が切れた場合

2.14.4. 失効情報の格納と更新

(1) 失効情報の格納

CA が発行した証明書の証明書失効リストは、各証明書の `cRLDistributionPoint` 拡張に示されたエントリ、または CA のエントリに格納するものとする。なお、LGPKI 組織 CA は、失効情報の LGPKI 公開リポジトリへの格納は行わない。

・ARL

格納するエントリ	各証明書内の <code>cRLDistributionPoints</code> で指定されたエントリまたは CA のエントリ
格納するエントリが持たなければならないオブジェクトクラス	・ <code>cRLDistributionPoints</code> で指定されたエントリの場合、 <code>CRLDistributionPoint</code> (joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) <code>cRLDistributionPoint(19)</code>) ・ CA のエントリの場合、 <code>pkiCA</code> (joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) <code>pkiCA(22)</code>)
格納する属性	<code>AuthorityRevocationList</code> 属性 (ARL)
属性値の型	<code>CertificateList</code>

・CRL

格納するエントリ	各証明書内の <code>cRLDistributionPoints</code> で指定されたエントリまたは CA のエントリ
----------	--

格納するエントリが持たなければならないオブジェクトクラス	・ cRLDistributionPoints で指定されたエントリの場合、 CRLDistributionPoint (joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) cRLDistiributionPoint(19)) ・ CA のエントリの場合、 pkiCA (joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) pkiCA(22))
格納する属性	CertificateRevocationList 属性 (CRL)
属性値の型	CertificateList

(2)失効情報の更新

失効情報は、nextUpdate までに更新しなければならない。この時、実際の更新を nextUpdate より前に行い、新旧の失効情報がオーバーラップする期間を設けておく運用を行う。これにより、障害や事故等により次回の更新が遅れた場合に、失効情報がまったく公開されない期間が出現しないようにできる可能性が大きくなる。

3 アプリケーション仕様

3.1. 概要

本章では、LGPKI を利用するアプリケーションが満たすべき機能を記述する。前提として、以下の要件を満たすことが必要となる。

- アプリケーション間で関連する証明書と失効情報には互換性がなければならない
- 署名アルゴリズムは互換性がなければならない
- 相対する 2 者間で認証パスの構築と検証ができなければならない
- 証明書や失効情報を共有する方法には互換性がなければならない
- 相対する 2 者間で利用する署名フォーマットは互換性がなければならない
- ベンダー固有の依存性は避けなければならない

また LGPKI は、拡張性やアプリケーションの汎用性を確保する観点から、他の認証ドメインとの技術的な統一性を重視している。具体的には、公的な認証基盤である GPKI との技術的な統一を重視している。そのため、原則として、GPKI の技術仕様である、政府認証基盤相互運用性仕様書に定められた事項に準拠しなければならない。

なお、セコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスの認証局についてはセコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスのリポジトリで公開する CP、CPS を参照のこと。

Security Communication RootCA2 : <https://repository.secomtrust.net/SC-Root2/>

SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 : <https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

セコムパスポート for Web SR3.0 CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfw/pfwsr3ca/>

セコムパスポート for PublicID CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfm20pub/>

<https://repol.secomtrust.net/root/docrsa/>

以降では、LGPKI に固有な仕様について記述する。

3.2. 証明書と失効情報(CRL/ARL)のプロファイル

LGPKI で定義するプロファイルの詳細に関しては「地方公共団体組織認証基盤・プロファイル設計書」に示す。

なお、LGPKI 組織 CA R2 の発行する証明書の名義 (Subject) を表 3-1、表 3-2 に、セコムパスポート for Web SR3.0 CA が発行する Web サーバ証明書の名義 (Subject) を表 3-3 に、セコムパスポート for PublicID CA が発行するメール用証明書の名義 (Subject) を表 3-4、文書等署名用職責証明書の名義 (Subject) を表 3-45 に、LGPKI 組織 CA の発行する暗号化通信用等証明書の名義 (Subject) を表 3-6 に示す。

表 3-1 職責証明書

識別属性型	属性型	属性型説明	値の設定例
c	countryName	電子証明書所有者の国名	JP
o	organizeitionName	電子証明書所有者の組織名	Local Governments
l	localityName	電子証明書所有者の地域名	都道府県（英語）
ou	organizationalUnitName	電子証明書所有者の組織単位名	地方公共団体名（英語）
ou (*1)	organizationalUnitName	電子証明書所有者の組織単位名 (*2)	所属部門名（英語）
cn (*1)	commonName	電子証明書所有者の固有名称	役職名等（英語）

(*1) ou、cn の英語表記は 64 文字以内という制限があり、64 文字を超える名称等については 64 文字以内で収まるような名称に変更する。

(*2) 局、室、課名は、organizationalUnitName を用いて表現する。本 organizationalUnitName は、0 ～ 7 個の間で任意に用いることが出来る。

表 3-2 利用者証明書

識別属性型	属性型	属性型説明	値の設定例
c	countryName	電子証明書所有者の国名	JP
o	organizeitionName	電子証明書所有者の組織名	Local Governments
l	localityName	電子証明書所有者の地域名	都道府県（英語）
ou	organizationalUnitName	電子証明書所有者の組織単位名	地方公共団体名（英語）
ou (*1)	organizationalUnitName	電子証明書所有者の組織単位名 (*2)	所属部門名（英語）
cn (*1)	commonName	電子証明書所有者の固有名称	役職名等（英語）

(*1) ou、cn の英語表記は 64 文字以内という制限があり、64 文字を超える名称等については 64 文字以内で収まるような名称に変更する。

(*2) 局、室、課名は、organizationalUnitName を用いて表現する。本 organizationalUnitName は、0 ～ 7 個の間で任意に用いることが出来る。

証明書発行要求（以下「CSR」という。）ファイルに設定できるサブジェクトが定型化されているなどの Web サーバ及び署名ツール側の技術的理由により、指定する識別名と同様の識別名構造での CSR ファイル作成が不可能な場合は、CSR ファイル作成側で指定する識別名の読み替えを行う。

表 3-3 Web サーバ証明書

識別属性型	属性型	読み替え	値の設定例
c	countryName	国コードをそのまま指定。	JP
st または s	state or province	各地方公共団体の属する都道府県域を指定。	東京都の場合 「Tokyo」「Tokyo-to」
l	localityName	各地方公共団体の組織の所在地（代表）が置かれている市区町村名を指定。	東京都の場合 「Shinjuku-ku」 「Shinjuku City」
o	organizeitionName	各地方公共団体の団体名	東京都の場合 「Tokyo」「Tokyo-to」
cn (*1)	commonName	サーバの完全修飾ドメイン名（FQDN）を指定。	www.pref.xxxxx.lg.jp

(*1) cn の英語表記は 64 文字以内という制限があり、64 文字を超える名称等については 64 文字以内で収まるような名称に変更する。

表 3-4 メール用証明書

識別属性型	属性型	属性型説明	値の設定例
cn	commonName	電子証明書所有者のメールアドレス	xxxxx@pref.xxxx.lg.jp
E	E-mail address	電子証明書所有者のメールアドレス	xxxxx@pref.xxxx.lg.jp

表 3-5 文書等署名用職責証明書

識別属性型	属性型	属性型説明	値の設定例
c	countryName	電子証明書所有者の国名	JP
st	state or province	各地方公共団体の属する都道府県域を指定。	都道府県名（英語）
l	localityName	各地方公共団体の組織の所在地（代表）が置かれている市区町村名を指定。	市区町村名(英語)
o	organizeitionName	各地方公共団体の団体名	地方公共団体名（英語）
ou (*1)	organizationalUnitName	電子証明書所有者の組織単位名	部門・部署名（英語）
cn (*1)	commonName	電子証明書所有者の固有名称	役職名等（英語）

(*1) ou、cn の英語表記は 64 文字以内という制限があり、64 文字を超える名称等については 64 文字以内で収まるような名称に変更する。

表 3-6 暗号化通信用等証明書

識別属性型	属性型	属性型説明	値の設定例
c	countryName	電子証明書所有者の国名	JP
o	organizeitionName	電子証明書所有者の組織名	Local Governments
l	localityName	電子証明書所有者の地域名	都道府県（英語）
ou (*1)	organizationalUnitName	電子証明書所有者の組織単位名	地方公共団体名（英語）
cn (*1)	commonName	電子証明書所有者の固有名称	情報提供ネットワークシステムが定める機関コード

(*1) ou、cn の英語表記は 64 文字以内という制限があり、64 文字を超える名称等については 64 文字以内で収まるような名称に変更する。

3.3. 証明書と失効情報(CRL/ARL)の公開方法

LGPKI では基本的に LGPKI 公開リポジトリを使用し各種証明書や失効情報（CRL/ARL）を公開するものとする。そのため、登録内容に基準が無ければ、認証パスの構築や検証の際に参照できなくなってしまう。

本仕様書ではリポジトリ内のスキーマや DIT を示すディレクトリプロファイルを「6 ディレクトリプロファイル」に規定する。

3.4. 推奨署名アルゴリズム

LGPKI では以下に示す点に従って、推奨署名アルゴリズムを定める。

- 署名者があるアルゴリズムで署名したデータを、署名検証者が検証する際にはそのアルゴリズムを解釈できなければならない。
- 現状利用できるアルゴリズムが将来アルゴリズム危殆化により利用できなくなることも考慮しなければならない。
- 認証パス中に複数の署名アルゴリズムがある場合、認証パス中にある全てのアルゴリズムを解釈できなければならない。

3.4.1. アルゴリズム

エンドエンティティは署名検証する際、署名者が使用した署名アルゴリズムをサポートしていなければならない。

原則として署名アルゴリズムは以下を用いる。

- Sha384WithRSAEncryption (1.2.840.113549.1.1.12)
- Sha256WithRSAEncryption (1.2.840.113549.1.1.11)
- sha1WithRSAEncryption (1.2.840.113549.1.1.5)

なお、sha1WithRSAEncryption は過去の互換性のためにサポートする。

また、Sha384WithRSAEncryption はセコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスの認証局でのみサポートする。

3.4.2. 鍵長

署名検証者は、署名者が使用する鍵長の署名を検証できなければならない。また認証パスに含まれる全ての証明書の署名をその鍵長で検証できなければならない。そのため、少なくとも以下の鍵長での署名検証ができなければならない。

- RSA、2048 ビットまで

また、メール用証明書と文書等署名用職責証明書については、少なくとも以下の鍵長での署名検証ができなければならない。

- RSA、4096 ビットまで

3.4.3. 認証パスの構築・検証方法

認証パスの構築・検証に関しては、政府認証基盤相互運用性仕様書に記載の技術要件に準拠することが必須である。

3.5. LGPKI における名前と DIT の規定

3.5.1. 識別名、相対識別名

LGPKI における名前としては、generalName の directoryName を用いる。issuer 及び subject もまた directoryName である。directoryName は識別名、すなわち一個以上の相対識別名のシーケンスである。

ここでは識別名及びその構成要素である相対識別名の使用可能文字、証明書へのエンコード方式について規定する。以後本書では、特に断らない限り「識別名」と記している場合、相対識別名も含むものとする。

これらは原則として RFC5280 の規定にしたがうものとするが、以下では LGPKI における特記事項について記述する。

3.5.2. エンコードタイプ

subject や issuer で使用される DN を記述する文字コードについては、原則として UTF8 String を用いる。ただし、アプリケーション CA R2、アプリケーション CA R3 から発行される証明書については、当面 Printable String で発行する。

3.5.3. issuerAltName 及び subjectAltName

issuerAltName 及び subjectAltName の directoryName については、日本語表記を格納することもできるものとする。その場合、エンコードタイプは UTF8String としなければならない。

4 証明書検証サーバの利用

4.1. 概要

LGPKI では、LGPKI 証明書検証サーバは LGPKI 組織 CA R2 によって認証される。また、証明書検証サーバを利用するのは、LGPKI 組織 CA R2 をトラストアンカーとする地方公共団体の職責者もしくはそれに準ずる証明書検証者である。また、検証対象となる証明書は、LGPKI が発行する証明書のほかに、LGPKI 組織 CA R2 が相互認証している他 CA が発行した証明書である。LGPKI 証明書検証サーバは、LGPKI が発行した証明書を検証する者に対し、証明書検証という非常に複雑な処理の代行や、さらに、LDAP による LGPKI 公開リポジトリへのアクセスが困難な者に対し、各種認証情報を提供する等、LGPKI が発行した証明書を検証する側の負担を軽減するものである。

本章では、まず LGPKI 組織 CA R2 が提供する LGPKI 証明書検証サーバについて記述し、その後証明書を発行する LGPKI 組織 CA R2 と、LGPKI 証明書検証サーバを利用する利用者クライアントが満たすべき仕様について記述する。

4.2. 証明書検証サーバ用証明書(VA 証明書)

LGPKI 証明書検証サーバの証明書は、LGPKI 組織 CA R2 が発行する。また、証明書検証サーバの証明書の `extendedKeyUsage` には `id-kp-OCSPSigning` を設定する。

4.3. クライアント要件

LGPKI 証明書検証サーバを利用するクライアントが備えているべき点を記述する。

4.3.1. クライアント側の前準備

LGPKI 証明書検証サーバのレスポンスデータに含まれる署名を検証する必要があるため、クライアントは自分の利用する LGPKI 証明書検証サーバの署名を検証するのに必要な下記の情報を設定する必要がある。

- トラストアンカーの証明書

4.4. 証明書検証サーバ通信プロトコル

LGPKI 証明書検証サーバとの通信プロトコルについては、別添 1 に示す。

4.5. 証明書検証サーバのアクセス制御

LGPKI 証明書検証サーバは、公的個人認証サービスから発行された証明書の検証を行う際、公的個人認証サービスの失効情報を参照する。LGPKI では、LGPKI 証明書検証サーバの利用に当たって、公的個人認証サービスから失効情報の参照が許可された地方公共団体からの利用だけに限ることとする。

5 OCSP レスポンダの利用

LGPKI では、セコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスの OCSP レスポンダを利用する。この OCSP レスポンダについてはセコムトラストシステムズ株式会社が運用する各認証サービスのリポジトリで公開する CP、CPS を参照のこと。

Security Communication RootCA2 : <https://repository.secomtrust.net/SC-Root2/>

セコムパスポート for Web SR3.0 CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfw/pfwsr3ca/>

セコムパスポート for PublicID CA : <https://repo1.secomtrust.net/spcpp/pfm20pub/>

<https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

SECOM Document Signing RSA Root CA 2023 : <https://repo1.secomtrust.net/root/docrsa/>

6 ディレクトリプロファイル

6.1. LGPKI における DIT 構造

全てのエンティティは、全体として矛盾のない一つのディレクトリ情報ツリー（DIT）を構成する。

DIT の第一階層は国、第二階層は LGPKI（"LGPKI"、"LGPKI2"）コンテナとする。第三階層は、"LGPKI"以下に LGPKI 組織 CA、LGPKI アプリケーション CA R2、"LGPKI2"以下に LGPKI 組織 CA R2 とする。

なお LGPKI においては、発行する証明書の subject や issuer で使用される DN を記述する文字コードが Printable String の CA と UTF8String の CA がある。LGPKI 組織 CA 及び LGPKI 組織 CA R2 の文字コードは UTF8String である。

図 6-1 に LGPKI における DIT 構造を示す。

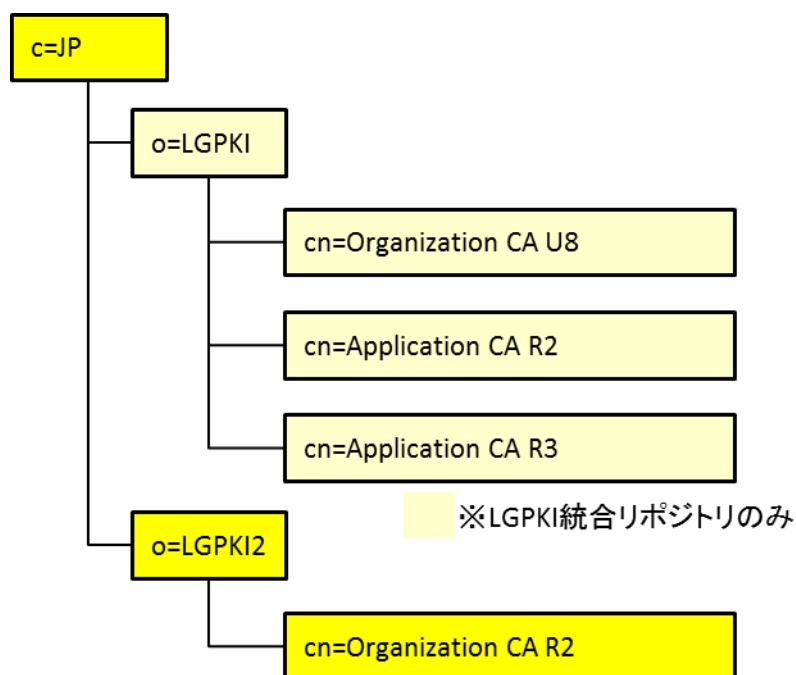


図 6-1 LGPKI における DIT 構造

6.2. DIT の名前形式

DIT 構造の各階層において、識別名に用いる属性を表 6-1 階層ごとの識別属性型と属性値のように定める。

表 6-1 階層ごとの識別属性型と属性値

階層	識別属性型	属性値として取り得る値
第一階層	c	"JP"
第二階層	o	"Local Governments"、"LGPKI"、"LGPKI2"、"地方公共団体"
第三階層	ou	"Organization CA U8"、"Organization CA R2"
	cn	"Application CA R2"、"Application CA R3"
	l	都道府県域名
第四階層	ou	地方公共団体名
第五階層以下	ou	地方公共団体内各組織・部門
リーフ	cn	名義（役職名義）

6.3. リポジトリ等に格納される情報

リポジトリ等に格納されるエン트리及び属性について示す。

6.3.1. LGPKI コンテナ

LGPKI コンテナを表すエントリを構成するオブジェクトクラスとして、RFC4519 に定められている organization オブジェクトクラスを用いる。

organization オブジェクトクラスの定義及び organization オブジェクトクラスの上位オブジェクトクラスとして参照される top オブジェクトクラスの定義は、各々表 6-2、表 6-3 のとおりである。

表 6-2 organization オブジェクトクラスの定義

【オブジェクトクラス名】	organization
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) organization(4)
【種別】	構造型
【上位オブジェクトクラス】	top
【必須属性】	o
【任意属性】	userPassword searchGuide seeAlso businessCategory x121Address registeredAddress destinationIndicator preferredDeliveryMethod telexNumber telexTerminalIdentifier telephoneNumber internationalISDNNumber facsimileTelephoneNumber

	street postOfficeBox postalCode postalAddress physicalDeliveryOfficeName st l description
--	--

表 6-3 top オブジェクトクラスの定義

【オブジェクトクラス名】	top
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) top(0)
【種別】	抽象型
【上位オブジェクトクラス】	なし
【必須属性】	objectClass
【任意属性】	なし

(1) LGPKI コンテナ

LGPKI のコンテナを表す名前("LGPKI"、"LGPKI2")を格納する属性として organization オブジェクトクラスの必須属性である o 属性を用いる。

o 属性の定義及び o 属性の上位属性として参照される name 属性の定義は、各々表 6-4、表 6-5 のとおりである。

表 6-4 o 属性の定義

【属性名】	o
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) organizationName(10)
【上位属性】	name
【照合規則】	name 属性を継承
【属性構文】	name 属性を継承

表 6-5 name 属性の定義

【属性名】	name
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) name(41)
【上位属性】	なし
【照合規則】	<完全一致 > caseIgnoreMatch

	<部分一致>	caseIgnoreSubstringMatch
	<順序性>	なし
【属性構文】		DirectoryString

6.3.2. CA エントリ

組織 CA 等を表すエントリを構成するオブジェクトクラスとして、RFC4519 に定められている `organizationalUnit` オブジェクトクラスを用い、これに補助クラスとして、RFC4523 に定められている `pkiCA` オブジェクトクラスを付加する。

`organizationalUnit` オブジェクトクラスの定義及び `organizationalUnit` オブジェクトクラスの上位オブジェクトクラスとして参照される `top` オブジェクトクラスの定義は、各々表 6-6、表 6-3 のとおりである。

表 6-6 `organizationalUnit` の定義

【オブジェクトクラス名】	<code>organizationalUnit</code>
【オブジェクト識別子】	<code>joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6)</code> <code>organizationalUnit(5)</code>
【種別】	構造型
【上位オブジェクトクラス】	<code>top</code>
【必須属性】	<code>objectClass</code>

	ou
【任意属性】	userPassword searchGuide seeAlso businessCategory x121Address registeredAddress destinationIndicator preferredDeliveryMethod telexNumber telexTerminalIdentifier telephoneNumber internationaliSDNNumber facsimileTelephoneNumber street postOfficeBox postalCode postalAddress physicalDeliveryOfficeName st l description

organizationalRole オブジェクトクラスの定義及び organizationalRole オブジェクトクラス
の上位オブジェクトクラスとして参照される top オブジェクトクラスの定義は、各々表
6-7、表 6-3 のとおりである。

表 6-7 organizationalRole の定義

【オブジェクトクラス名】	organizationalRole
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) organizationalRole(8)
【種別】	構造型
【上位オブジェクトクラス】	top
【必須属性】	objectClass cn
【任意属性】	x121Address registeredAddress destinationIndicator preferredDeliveryMethod telexNumber teletexTerminalIdentifier telephoneNumber internationaliSDNNumber facsimileTelephoneNumber seeAlso roleOccupant preferredDeliveryMethod street postOfficeBox postalCode postalAddress

	physicalDeliveryOfficeName ou st 1 description
--	--

pkiCA オブジェクトクラスの定義は表 6-8 のとおりである。

表 6-8 pkiCA の定義

【オブジェクトクラス名】	pkiCA
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) objectClass(6) pkiCA(22)
【種別】	補助型
【上位オブジェクトクラス】	top
【必須属性】	objectClass
【任意属性】	cACertificate certificateRevocationList authorityRevocationList crossCertificatePair

(1) CA 名称

CA 名称 (LGPKI 組織 CA ("Organization CA U8")) あるいは LGPKI 組織 CA R2 ("Organization CA R2") を格納する属性として、organizationalUnit オブジェクトクラスの必須属性である ou 属性を用いる。

CA 名称 (LGPKI アプリケーション CA R2 ("Application CA R2")、LGPKI アプリケーション CA R3 ("Application CA R3")) を格納する属性として、organizationalRole オブジェクトクラスの必須属性である cn 属性を用いる。

ou 属性の定義、及び ou 属性の上位属性として参照される name 属性の定義は、各々表 6-9、表 6-5 のとおりである。

表 6-9 ou 属性の定義

【属性名】	ou
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) organizationalUnitName(11)
【上位属性】	name
【照合規則】	name 属性を継承
【属性構文】	name 属性を継承

cn 属性の定義及び cn 属性の上位属性として参照される name 属性の定義は、各々表 6-10、表 6-5 のとおりである。

表 6-10 cn 属性の定義

【属性名】	cn
【オブジェクト識別子】	joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) commonName (3)
【上位属性】	name
【照合規則】	name 属性を継承
【属性構文】	name 属性を継承

(2) 自己署名証明書及びリンク証明書

自己署名証明書及びリンク証明書を格納する属性として、pkiCA オブジェクトクラスの設定上追加必須属性である cACertificate 属性を用いる。

自己署名証明書及びリンク証明書は、LGPKI 組織 CAR2 が持つ。

この属性は"cACertificate;binary"と指定することによって属性値の受け渡しを行う。

cACertificate 属性の定義は表 6-11 のとおりである。

表 6-11 cACertificate 属性の定義

【属性名】	cACertificate
-------	---------------

【オブジェクト識別子】		joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) cACertificate(37)
【上位属性】		なし
【照合規則】	<完全一致>	certificateExactMatch
	<部分一致>	なし
	<順序性>	なし
【属性構文】		Certificate

(3) 相互認証証明書

相互認証証明書は、次の二つの属性に格納される。

ア) crossCertificatePair 属性

LGPKI 組織 CAR2 の CA エントリでは、他 CA との間で取り交わした相互認証証明書が、pkiCA オブジェクトクラスの設定上追加必須属性である crossCertificatePair 属性に格納される。

この属性は"crossCertificatePair;binary"と指定することによって属性値の受け渡しを行う。

crossCertificatePair 属性の定義は表 6-12 のとおりである。

表 6-12 crossCertificatePair 属性の定義

【属性名】		crossCertificatePair
【オブジェクト識別子】		joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) crossCertificatePair(40)
【上位属性】		なし
【照合規則】	<完全一致>	certificatePairExactMatch
	<部分一致>	なし
	<順序性>	なし
【属性構文】		CertificatePair

(4) CRL

CRL を格納する属性として、pkiCA オブジェクトクラスの設定上追加必須属性である certificateRevocationList 属性を用いる。

この属性は"certificateRevocationList;binary"と指定することによって属性値の受け渡しを行う。

certificateRevocationList 属性の定義は表 6-13 のとおりである。

表 6-13 certificateRevocationList 属性の定義

【属性名】		certificateRevocationList
【オブジェクト識別子】		joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) certificateRevocationList(39)
【上位属性】		なし
【照合規則】	<完全一致>	certificateListExactMatch
	<部分一致>	なし
	<順序性>	なし
【属性構文】		CertificateList

(5) ARL

CA に関する CRL を格納する属性として、pkiCA オブジェクトクラスの設定上追加必須属性である authorityRevocationList 属性を用いる。

この属性は"authorityRevocationList;binary"と指定することによって属性値の受け渡しを行う。

authorityRevocationList 属性の定義は表 6-14 のとおりである。

表 6-14 authorityRevocationList 属性の定義

【属性名】	authorityRevocationList
-------	-------------------------

【オブジェクト識別子】		joint-iso-itu-t(2) ds(5) attributeType(4) authorityRevocationList(38)
【上位属性】		なし
【照合規則】	<完全一致>	certificateListExactMatch
	<部分一致>	なし
	<順序性>	なし
【属性構文】		CertificateList

6.4. リポジトリ等のインタフェース仕様

リポジトリ等及びセコム公開リポジトリに対して、民間側が利用する行政サービスアプリケーションからは、証明書・署名の検証のための認証情報の検索が行われる。リポジトリ等及びセコム公開リポジトリに対する一切の更新系の操作は許可されない。

民間側が利用する行政サービスアプリケーションは、LDAPv3 をサポートするものとする。

BindRequest

認証なしによる Bind のみを許可する。この場合、BindRequest パラメータは以下のとおりである。

version	2 あるいは 3
name	"" (長さ 0 の文字列)
authentication.simple	"" (長さ 0 の文字列)

Bind Response

RFC4511 4.2.2 の規定のとおりとする。

Unbind Request/Response

RFC4511 4.3 の規定のとおりとする。

Search Request

以下の事項以外については、RFC4511 4.5.1 の規定のとおりとする。

derefAliases パラメータは neverDerefAliases のみとする。

typesOnly パラメータは FALSE としなくてはならない。

filter 項目について、approxMatch 及び extensibleMatch はサポートしない。

SearchResEntry/ResDone/ResRef

RFC4511 4.5.2 及び 4.5.3 の規定のとおりとする。

SearchResponse

RFC1777 4.3 の規定のとおりとする。

6.5. リポジトリ等のアクセス制御

6.5.1. 認証ポリシー

- 原則として認証しない。匿名によるアクセスを許可する。
この時、後述するアクセス制御ポリシーに従い、一部を除く全ての情報の参照が可能となるが、あらゆる情報の更新はできない。
- リポジトリ等及びセコム公開リポジトリが管理・格納する情報を更新する操作員に対しては、最低限パスワードによる認証を行う。この時、後述するアクセス制御ポリシーに従い、許可された範囲の情報に対する参照・更新・削除が可能となる。

6.5.2. アクセス制御ポリシー

以下の方針によるアクセス制御を実施する。

- リポジトリ等及びセコム公開リポジトリにアクセス可能な全てのクライアントに対して、全ての情報に対する参照権限を与える。ただし、一部公開すべきでない属性については、参照権限を与えない。さらに、各操作員を表すエントリに対しては、自分以外からの参照権限を与えない。
- 資格と権限のある操作員に対して、リポジトリ等及びセコム公開リポジトリが管理・格納する全ての情報について、参照・更新権限を与える。さらに、エントリの追加・削除・識別名変更権限を与える。

証明書検証サーバ通信プロトコル

1. はじめに

1.1. 証明書検証サーバの利用手順

証明書検証サーバの利用手順について説明する。

なお、証明書検証サーバと証明書検証サービスの利用者との通信は、SSL (https(TCP/443)) のサーバ認証を用いた暗号化通信とする。

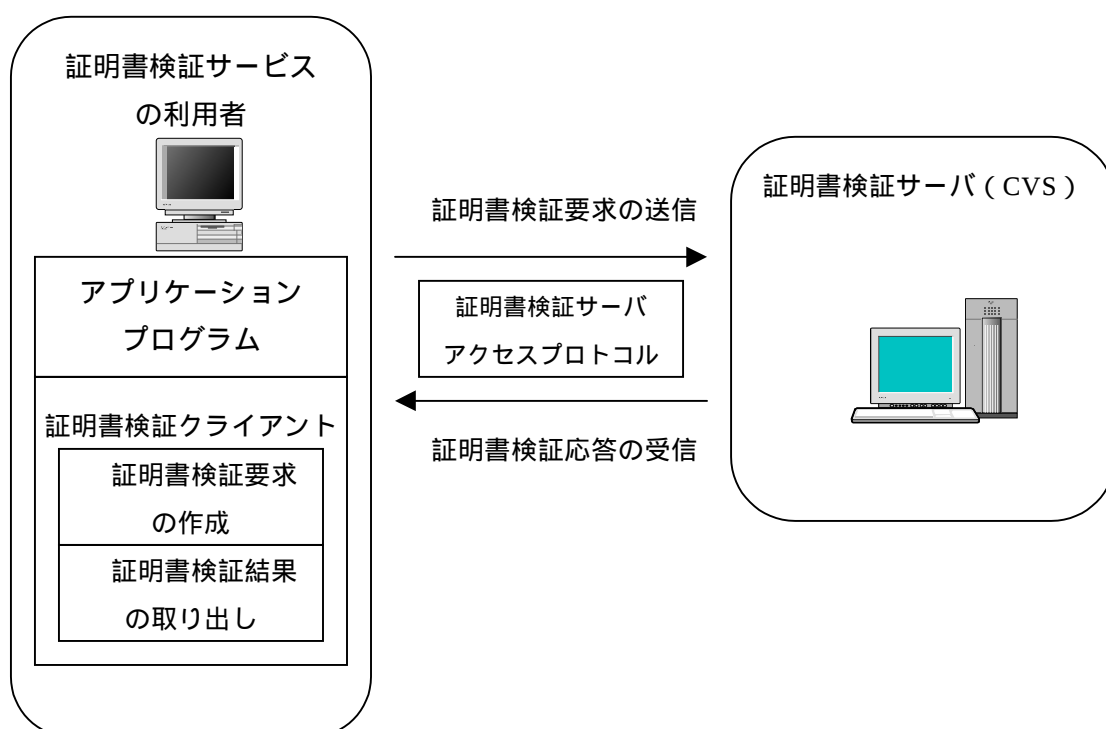


図 1-1 証明書検証の流れ

証明書検証要求の作成

アプリケーションプログラムは、証明書検証要求を 2 章以降で説明する証明書検証サーバアクセスプロトコルに従ったフォーマットで作成する。

証明書検証要求の送信

アプリケーションプログラムは、作成した証明書検証要求を証明書検証サーバ(CVS)に送信する。

証明書検証応答の受信

アプリケーションプログラムは、証明書検証サーバ(CVS)から送信された証明書検証応答を受信する。このとき受信した証明書検証応答は、2 章以降で説明する証明書検証サーバアクセスプロトコルに従ったフォーマットとなる。また、証明書検証応答中の証明書検証サーバによる署名の検証を行う。

証明書検証結果の取り出し

アプリケーションプログラムは、証明書検証応答から証明書検証結果の取り出しを行う。

2. 通信プロトコル

OCSP(RFC2560)をベースとし、その拡張領域を証明書検証サーバ用に以下のように定義する。なお、拡張領域に付与する OID(オブジェクト識別子)は次のものをベースとして指定するものとする。

OID: 1.2.392.200010.10

2.1. 証明書検証要求(OCSP Request + 拡張)

2.1.1. OCSP 基本領域(OCSPRequest)

RFC2560 の規定に従う。

ただし、requestExtensions に nonce を必須とする。

また、acceptableResponses, optionalSignature は用いないこととする。

2.1.2. OCSP 拡張領域 (singleRequestExtensions)

OCSP Request の拡張領域(singleRequestExtensions)に以下の情報を設定する。

2.1.2.1. 検証対象(subscriber)の証明書(必須)

検証の対象となる subscriber のエンドエンティティ証明書を指定する。

この Extension は必須である。

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-1 検証対象の証明書の設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.1 :subscriberCert	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	証明書(X.509)	

2.1.2.2. 中間証明書(オプション)

検証対象者(subscriber)側のルート認証局 (Trust Anchor)から subscriber のエンドエンティティまでの証明書等、認証パスの一部となる証明書を指定する。ただし、証明書検証サーバは、中間証明書を認証パス構築のためのヒント情報として利用するだけであり、必ずしも指定した証明書を含むパスを常に構築するわけではない。

この Extension はオプションであり、複数指定可能である。

また、複数指定する場合は、認証パスにおいて Trust Anchor に近い証明書から順に指定すること。

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-2 中間証明書の設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.2 :intermediateCerts	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	証明書(X.509)	

2.1.2.3. CA(Trust Anchor)の識別情報(オプション)

検証依頼者(relying party)が信頼するルート認証局 (Trust Anchor)を識別するための情報として次の情報を指定可能とする。

- CA 証明書

この Extension はオプションである。省略した場合、検証依頼者(relying party)が信頼するルート認証局 (Trust Anchor)は、証明書検証サーバ側で設定したルート認証局となる。

ただし、LGPKI では、必ず LGPKI ブリッジ認証局証明書を指定することとし、それ以外が指定された場合は、エラーを返すこととする。

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-3 ルート認証局 (Trust Anchor)証明書の設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.3 : trustAnchorCert	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	証明書(X.509)	

2.1.2.4. 満たすべきポリシー (オプション)

検証依頼者(relying party)が、認証パスに対して満たすべきポリシーを要求する場合に、そのポリシーの object id を指定する。満たすべきポリシーが指定された場合、証明書検証サーバは、構築した認証パスが指定されたポリシーを満たすかどうかを検査する。

この Extension はオプションであり、複数指定可能である。

表 2-4 満たすべきポリシー設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.4 : requiredPolicy	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	ポリシーの object-id	

2.1.2.5. require-explicit-policy の初期値 (オプション)

検証依頼者(relying party)が、認証パスに対して require-explicit-policy を要求する場合に、範囲を指定する。require-explicit-policy が指定された場合、証明書検証サーバは、require-explicit-policy の範囲外の証明書にポリシーが存在することを確認する。

この Extension はオプションである。

LGPKI では、満たすべきポリシーが指定された場合、この Extension は常に '0(ゼロ)' を指定することとする。

表 2-5 require-explicit-policy の初期値設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.5 :require-explicit-policy	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	0-xxx(integer)	

2.1.2.6. inhibit-policy-mapping の初期値 (オプション)

検証依頼者(relying party)が、認証パスに対して inhibit-policy-mapping を要求する場合には、範囲を指定する。inhibit-policy-mapping が指定された場合、証明書検証サーバは、inhibit-policy-mapping の範囲外の証明書にポリシマッピングが存在しないことを検査する。

この Extension はオプションである。

LGPKI では、ポリシマッピングを必須とするため、この Extension は常に指定しないこととする。

表 2-6 inhibit-policy-mapping の初期値設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.6 :inhibit-policy-mapping	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	0-xxx(integer)	

2.1.2.7. 応答フォーマット (オプション)

検証依頼者(relying party)が、証明書検証応答として返却すべき情報のレベルを指定する。

この Extension はオプションである。(省略時は証明書の検証結果のみ返却する。)

指定可能な情報レベルを次に示す。

- 0: 証明書の検証結果のみ返却する(デフォルト)
- 1: 証明書の検証結果に加えて、認証パス及び CRL/ARL を返却する。

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-7 応答フォーマット設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.7 : responseFormat	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	0 または 1(integer)	

2.2. 証明書検証応答 (OCSP Response + 拡張)

2.2.1. OCSP 基本領域 (OCSPResponse)

RFC2560 の規定に従う。

ただし、responseExtensions に nonce を必須とする。

また、nextUpdate は用いないこととする。

2.2.2. OCSP 拡張領域 (singleExtensions)

OCSP Response の拡張領域 (singleExtensions) に以下の情報を設定する。

2.2.2.1. 証明書検証結果 (必須)

証明書検証 (認証パスの構築及び検証) の結果コードが設定される。

この Extension は必須である。

証明書検証の結果コードを次に示す。

- 0: 認証パスの構築が成功し検証結果が正しい (good)
- 101: 認証パス構築不可
- 202: 認証パスに署名が不正である証明書が含まれる
- 203: 認証パスに失効した証明書が含まれる
- 204: 認証パスに Policy Mappings に Any-Policy が設定された証明書が含まれる
- 205: 認証パスに制約に違反している証明書が含まれる
- 206: 認証パスに OCSP での CertStatus が unknown と応答される証明書が含まれる
- 301: 証明書検証要求に推奨していない暗号アルゴリズムの検証対象証明書が含まれる
- 302: 証明書検証要求に推奨していない暗号アルゴリズムの中間証明書もしくはトラストアンカーの証明書、または、その両方が含まれる
- 901: 証明書検証サーバ側で要求の受け付けを拒否した
- 902: 要求がタイムアウトとなった

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-8 証明書検証結果設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.8 : certPathStatus	独自定義
Critical flag	Critical	
Value	0-xxx(integer)	

2.2.2.2. 認証パス(オプション)

構築した認証パスの全証明書を設定する。

この Extension はオプションであり、1つまたは複数設定される。(証明書検証要求の応答フォーマットで返却が要求されている場合に限り設定される。)

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-9 認証パス設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.9 : CertPath	独自定義
Critical flag	Non Critical	
Value	証明書(X.509)	

2.2.2.3. CRL/ARL(オプション)

構築した認証パスの証明書について、証明書発行者(OCSP レスポンドを除く)が発行した失効リスト(CRL/ARL)を設定する。

この Extension はオプションであり、1つまたは複数設定される。(証明書検証要求の応答フォーマットで返却が要求されている場合に限り設定される。)

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-10 CRL/ARL 設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.10 : revocationList	独自定義
Critical flag	Non Critical	
Value	CRL(X.509)	

2.2.2.4. OCSP レスポンダからの応答 (オプション)

構築した認証パスの証明書について、証明書発行者 (OCSP レスポンダに限る) から取得した OCSP 応答情報を設定する。

この Extension はオプションであり、1 つまたは複数設定される。(証明書検証要求の応答フォーマットで返却が要求されている場合に限り設定される。)

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-11 OCSP レスポンダからの応答設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.11 : OCSPResponse	独自定義
Critical flag	Non Critical	
Value	OCSP レスポンスデータ (RFC2560)	

2.2.2.5. 適合したポリシー (オプション)

構築した認証パスの証明書について、検証結果として有効なポリシーを設定する。

この Extension はオプションであり、1 つまたは複数設定される。(証明書検証要求の応答フォーマットで返却が要求されている場合に限り設定される。)

拡張部分への設定フォーマットを次表に示す。

表 2-12 適合したポリシー設定フォーマット

プロトコル要素	指定する値	備考
Object id	1.2.392.200010.10.12 : mappedPolicy	独自定義
Critical flag	Non Critical	
Value	ポリシーの object-id	

3. 電文フォーマット

証明書検証要求、応答はそれぞれ https(TCP/443)を通信プロトコルとする。証明書検証サーバとの通信で利用する HTTP ヘッダを以下のように定義する。

3.1. 証明書検証要求

表 3-1 証明書検証要求

項番	項目	設定値	区切り
1	Request-line	POST / HTTP/1.0	CR+LF
2	entity-header	Content-Type: application/ocsp-request	CR+LF
		Content-Length: N	CR+LF
3	(空行)		CR+LF
4	entity-body	要求内容	

注(1) CR+LF: ASCII コードの 0d(16 進)、0a(16 進)を続けることを示す。

注(2) N: entity-body のバイト長を示す。

注(3) : 空白(ASCII コード 20(16 進))を示す。

3.2. 証明書検証応答

表 3-2 証明書検証応答

項番	項目	設定値	区切り
1	Status-line	HTTP/1.0 200 OK	CR+LF
2	entity-header	Content-Type: application/ocsp-response	CR+LF
		Content-Transfer-Encoding: Binary	CR+LF
		Content-Length: N	CR+LF
3	(空行)		CR+LF
4	Entity-body	応答内容	

注(1) CR+LF: ASCII コードの 0d(16 進)、0a(16 進)を続けることを示す。

注(2) N: entity-body のバイト長を示す。

注(3) : 空白(ASCII コード 20(16 進))を示す。

4. 証明書検証要求・応答プロトコル

4.1. 証明書検証要求プロトコル

LGPKI における証明書検証サーバにアクセスする際の証明書検証要求プロトコルを以下に示す。

表 4-1 証明書検証要求プロトコル

フィールド	データ型	設定値	必須 (注 1)
-	OCSPRequest		
tbsRequest	TBSRequest		
requestList	SEQUENCE OF Request		
-	Request		
reqCert	CertID (注 2)		
hashAlgorithm	AlgorithmIdentifier		
algorithm	OBJECT IDENTIFIER	1.3.14.3.2.26	
parameters	NULL	-	
issuerNameHash	OCTET STRING	20 バイト以下の値を設定する。	
issuerKeyHash	OCTET STRING	20 バイト以下の値を設定する。	
serialNumber	CertificateSerialNumber	シリアル番号を設定する。	
singleRequestExtensions	[0]		
-	Extensions		
(subscriberCert)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.1	
critical	BOOLEAN	TRUE	
extnValue	OCTET STRING		
-	Certificate	検証の対象となるsubscriberの証明書を設定する。	
(intermediateCerts)	Extension (注 3)		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.2	↑
critical	BOOLEAN	TRUE	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	Certificate	中間証明書を設定する。	↑
(trustAnchorCert)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.3	
critical	BOOLEAN	TRUE	
extnValue	OCTET STRING		
-	Certificate	検証依頼者が信頼するルートCAの自己署名証明書を設定する。	
(requiredPolicy)	Extension (注 3)		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.4	↑
critical	BOOLEAN	TRUE	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	OBJECT IDENTIFIER	検証依頼者が受け入れるポリシーのOIDを設定する。	↑
(require-explicit-policy)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.5	↑
critical	BOOLEAN	TRUE	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	INTEGER	require-explicit-policyの範囲を設定する。 (注4)	↑
(inhibit-policy-mapping)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.6	↑
critical	BOOLEAN	TRUE	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	INTEGER	inhibit-policy-mappingの範囲を設定する。 (注5)	↑

(responseFormat)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.7	↑
critical	BOOLEAN	TRUE	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	INTEGER	応答フォーマットを指定する。	↑
requestExtensions	[2]		
-	Extensions		
(nonce)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.3.6.1.5.5.7.48.1.2	
extnValue	OCTET STRING		
-	Nonce (注 6)	1バイト以上32バイト以下の乱数を設定する。	

注1 印のあるフィールドは必須である。 印のあるフィールドは、オプションである。↑ 印のあるフィールドには、上欄にフィールドを設けたときは、必須である。

注2 証明書検証サーバは CertID ではなく Subscriber の証明書で検証対象となる証明書を特定している。

注3 複数指定する場合は、同じ OID を持つ Extension を複数設定する。

注4 設定する場合は、必ず「0」を設定する。

注5 本拡張は利用しない。

注6 OCTET STRING としてカプセル化されていること。

4.2. 証明書検証応答プロトコル

LGPKI における証明書検証サーバにアクセスする際の検証応答プロトコルを以下に示す。

表 4-2 証明書検証応答プロトコル

フィールド	データ型	設定値	必須 (注 1)
-	OCSPResponse		
responseStatus	OCSPResponseStatus	0	
responseBytes	[0]		
-	ResponseBytes		
responseType	OBJECT IDENTIFIER	1.3.6.1.5.5.7.48.1.1	
response	OCTET STRING		
-	BasicOCSPResponse		
tbsResponseData	ResponseData		
responderID	ResponderID([1])		
-	Name	署名を行った CVS の電子証明書の「subject」が設定される。	
producedAt	GeneralizedTime	この電文を作成した日時が設定される。	
responses	SEQUENCE OF SingleResponse		
-	SingleResponse		
certID	CertID		
hashAlgorithm	AlgorithmIdentifier		
algorithm	OBJECT IDENTIFIER	1.3.14.3.2.26	
parameters	NULL	-	
issuerNameHash	OCTET STRING	Request で設定した値が設定される。	
issuerKeyHash	OCTET STRING	Request で設定した値が設定される。	
serialNumber	CertificateSerialNumber	Request で設定した値が設定される。	
certStatus	CertStatus(CHOICE)		
unknown	[2] UnknownInfo	(注 2)	
thisUpdate	GeneralizedTime	この電文を作成した日時が設定される。	

singleExtensions	[1]		
-	Extensions		
(certPathStatus)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.8	
critical	BOOLEAN	TRUE	
extnValue	OCTET STRING		
-	INTEGER	証明書検証結果が設定される	
(certPath)	Extension(注 3)		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.9	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	CERTIFICATE	認証パスで構築された証明書が設定される	↑
(revocationList)	Extension(注 3)		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.10	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	CRL	認証パス検証で利用したCRL/ARLが設定される。	↑
(OCSPResponse)	Extension(注 3)		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.11	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	OCSPResponse	認証パス検証で利用したOCSPResponseが設定される。	↑
(mappedPolicy)	Extension(注 3)		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.2.392.200010.10.12	↑
extnValue	OCTET STRING		
-	OBJECT IDENTIFIER	検証結果として有効なポリシーのOIDが設定される。	↑
responseExtensions	[1]		
-	Extensions		
(nonce)	Extension		
extnId	OBJECT IDENTIFIER	1.3.6.1.5.5.7.48.1.2	
extnValue	OCTET STRING		
-	Nonce	Request で設定した値が設定される。	
signatureAlgorithm	AlgorithmIdentifier		
algorithm	OBJECT IDENTIFIER	1.2.840.113549.1.1.11	
parameters	NULL	-	
signature	BIT STRING	CVS の署名が設定される。	
certs	[0]		
-	SEQUENCE OF Certificate	CVS の証明書が設定される。	

注1 印のあるフィールドは必ず設定される。 印のあるフィールドは、証明書検証要求で指定された場合にのみ設定される。↑ 印のあるフィールドには、上欄にフィールドを設定したときは、必ず設定される。

注2 必ず unknown が設定される。

注3 複数設定される場合は、同じ OID を持つ Extension が複数設定される。

5. 署名アルゴリズム

証明書検証サーバがサポートする証明書の署名アルゴリズムは以下の通りである。

- sha256WithRSAEncryption

上記署名アルゴリズム以外の証明書を証明書検証要求に設定した場合、証明書検証サーバは、証明書検証結果に 2.2.2.1 で示した結果コードを応答する。

また、証明書検証サーバは、sha256WithRSAEncryption により署名を行い、レスポンスデータには証明書検証サーバ証明書が含まれる。